

生涯学習やまがた



ゆうキャンパス・ステーション（遊学館2階）



市民講座「やまがた夜話」



学生による地域貢献・活性化プロジェクト「科学体験教室」



プロスポーツを活用した地域活性化活動
「モンテディオ山形杯 雪中棚田サッカー大会」

CONTENTS

② 特集

伝承文化とともに歩む地域と子どもたち（菊地和博氏）

⑤ 地域文化の取り組みを紹介します

真室川スタディツアー／谷柏田植踊

⑥ あなた やまがた たからびと⑨

佐藤 薫さん（鶴岡市）

⑦ コロナに負けない！～地域の取り組みを紹介します～

天文講演会JAXA「はやぶさ2」トークライブ
（北村山視聴覚教育センター）

⑧ Information

歴史文化ゾーン～庭園・樹木を巡る2020～、庭園と抹茶を楽しむ会、地域づくり人材育成
セミナー、高齢者生きがいづくり 生活支援活動人材育成等事業、山形学講座

— 遊学館の新たな仲間たち — 大学コンソーシアムやまがた

今回で紹介するのは「大学コンソーシアムやまがた」。県内の大学・短期大学・高等専門学校・放送大学等13の高等教育機関と山形県の連合組織で、「ゆうキャンパス」の愛称で親しまれています。加盟する教育機関が相互に連携し交流を推進することで、知的資源を有効に活用し、地域社会に貢献することを目的としています。

併設されている「ゆうキャンパス・ステーション」では、サークルや学内活動の発表やイベント、講演会、学会等の研究発表、中高生の学習の場などとして利用されています。



“やまがたで学ぶ、やまがたを担う、
すべて学べる13校”

大学コンソーシアムやまがたHP

地域文化の保存や伝承活動は、担い手育成や世代間交流を通し、郷土愛の醸成や地域コミュニティ活性化に繋がっています。今回は被災地や県内の事例等を踏まえ、現在の伝承文化の状況や今後の担い手育成について、菊地和博氏より寄稿していただきました。

「伝承文化とともに歩む地域と子どもたち」

東北文教大学短期大学部特任教授

菊地 和博氏
きくち かずひろ

1. 東日本大震災後の伝承文化

2011（平成23）年3月11日に発生した東日本大震災は福島第一原発事故も引き起こし、想像を絶する被害を各地にもたらした。東京文化財研究所の「3・11復興支援・無形文化遺産ネットワーク」が2014年3月時点でまとめた調査によれば、最も大きな被害を受けた岩手県・宮城県・福島県における民俗芸能団体は、活動中止・停止中も含めて約850の膨大な数にのぼっている。各団体がいかに甚大な被害を受けたかがわかる。

(1) 民俗芸能復活への動き

岩手県大槌町では、「白澤鹿子踊」が早くも震災から31日後の4月11日に稽古場の中庭で踊った。稽古場に

は家と家族を失った127人が避難していた。白澤地区では明治三陸地震（1896年）や昭和三陸地震（1933年）で被災したときも犠牲者を追悼するために踊っている。大槌町では人口約1万5千人のうち733人が亡くなり、952人が行方不明となっていた。この日は死者の鎮魂の演目「回向」をなんとか10人ほどで演じた。泣きながら太鼓を叩く人、それを見ながら目頭を押さえつつ笑顔を見せる人などがいた。

さらに5月1日にも犠牲者の追悼と復興を祈って地域の人たちを前にして踊った。当日は保存会員や子どもたち約40人が一生懸命に演じたことが人々に感動を与えた。ある女性は、津波で犠牲になった夫と行方不明になってい

る義父母の写真を膝にして最前列で見物した。家族はいつも最前列で見たいので当日も見せたかったという。この日囃子方として笛を担当した男性の妻も津波で行方不明のままだった。その男性のコメントを報じる新聞には、「これまで一緒に祭りに参加してきた妻を思い出して涙が出た。気持ちを切り替えて一歩前進したい」（5月2日付、読売新聞）。「地震、津波なんかは負けてたまるか。再発の、これがおらほの鹿子踊だ」と記されていた（5月2日付、朝日新聞）。



岩手県陸前高田市に掲示されている「七夕まつり」復興をめざす看板

(2) 祭り復活への動き

被災地では民俗芸能だけが復活したわけではない。祭りも復活させようと懸命に取り組んでいる事例もみられた。その一例として、岩手県陸前高田市の気仙町では、約230人が津波で犠牲になり9割以上の住宅が流された。町では重さ3トンの山車をぶつけ合う「けんか七夕」が伝統であったが、山車の4台のうち3台が流された。しかし、8月7日（日）残った1台を皆で引っ張りながら、瓦礫だらけの町内を

菊地 和博氏 プロフィール



専門は、民俗学・民俗芸能論。日本民俗学会評議員。民俗芸能学会評議員。文学博士（東北大学）、東北文教大学短期大学部総合文化学科教授を経て、2015年より東北文教大学短期大学部特任教授。伝承文化支援研究センター長、山形県文化財保護審議会副会長、山形県民俗芸能懇話会会長、山形県生涯学習センター「山形学」企画委員会委員長。著書に『東北の民俗芸能と祭礼行事』（単著、清文堂2017）、『民俗行事と庶民信仰』（単著、岩田書院2015）などがある。齋藤茂吉文化賞受賞（2016年）。

一時間かけて巡った。山車の上にはこれまで祭りに参加して亡くなった2人の遺影を飾って練り歩いた。悲しみを乗り越えて、祭りの復活と町の復興へのきっかけを掴もうとしている人々の姿は感動を与えた。

(3) 福島県の厳しい現状に立ち向かう

直撃を受けた被災地三県のなかで、福島県の沿岸部の民俗芸能が厳しい状況におかれている。平成26年3月までの2か年にわたる民俗芸能学会福島調査団（文化庁委嘱）によれば、沿岸部の約400団体の6割に当たる約230団体が活動休止の状態が続いている。原発事故による避難生活が引き

金になったのが約200団体あり、それ以外の60団体は津波の影響であった。復活したのは約30団体に過ぎない。それでも2年間の休止を経て復活を決めたのが大熊町の「熊川稚児鹿舞^{くまがわこゝろししまい}」である。太鼓や衣装は津波で流されたが、文化庁と県の補助金でそれらを揃えて再開を決意、避難先から約30人が集って練習に励んだ。保存会長の宮本明氏は「祭りは町そのものです。原発のためにやめられるかという気持ち。故郷

がなくなったみたいなのですが、舞の先に故郷を見てるんです」と調査団に語っている。

以上、被災地の人々が語った力強い言葉や行動には、地域における芸能や祭りのもつ底力が端的に表されている。地域が守り育ててきた伝承文化は、逆境の中でも人々を励まし生きようとする意志を奮い立たせる力をもっているのである。

2. 限界集落における伝承文化

前記被災地三県のように山形県は震災の大きな被害は受けなかったが、他地域と同じように激しい少子化と過疎化に直面している。米沢市の綱木地区には「綱木獅子踊^{つなぎししやうぶ}」という民俗芸能が伝承されている。この踊りは、江戸時代からお盆の鎮魂供養のため円照寺の境内と家々を踊り歩いている。綱木地区は米沢市の中心部から約20キロ山手に入った集落であるが、離村者が後を断たず現在なんと3戸4人のみが暮らすまさに限界集落である。

このような集落で獅子の芸能は一体どのような形で継承されているのか。



米沢市綱木集落で毎年定例公演を行なっている綱木獅子踊

じつは、すでに綱木の集落を離れて米沢市の市街地に住んでいる人たちが支え続けているのだ。集落に残った保存会長をはじめとする関係者の「なんとか集落の伝承文化を守り続けたい」という強い思いが離村者たちの心を動かしたのである。平成18年に米沢市南原コミュニティセンターで伝承者養成の練習が始まった。その結果、平成19年8月15日の公演には笛・踊りの新メンバー9人を含む41人ものメンバーが加わった。さらに平成21年は笛の奏者が綱木関係者以外から2名も参加した。

こうして、現在では集落外から踊り手や囃し手が参加して、獅子踊保存会は

約50名を超えるほどに復活を遂げた。このように、綱木集落に残る人とうつた人との心をガッチリと繋いでいるのが伝承文化である。過疎化が激しい山間の集落で踊り続けられる芸能の力は想像を超えたものがあり、これぞ限界集落の逆境における「モデルケース」といえよう。

3. 子どもの伝承文化体験の意義

ここで、将来の担い手である子どもたちに焦点を当てて、子どもが地域の伝承文化を体験することの意義について考えてみたい。埼玉県では「県民の日」である11月14日、県内小中学生に対して毎年記念作文を募集してコンクールを開催し、いくつかの優秀作品を表彰している。少し前の事例であるが、次の文章は平成15年に小学校の部で優秀賞を受賞した岡部美月さん（当時6年生）の作文「家族みんなで参加するしし舞」から一部抜粋したものである。

お盆が終わり、秋が近づく8月24日は下名栗諏訪神社のお祭りです。お祭

りの中心は「埼玉県無形民謡・文化財」に指定されているしし舞です。私は神社の近くに住んでいるので小学校

からしていると、何だか大きなものを支えている気持ちになってきます。

3年生の時からササラとして参加しています。ササラは小中学生女子四人が太陽、月、ぼたんの花笠を頭に付けて竹の道具をすります。笛に合わせて狂う三匹のししと同じくらいに大切な役目です。ひいおじいさんもお祭りが大好きでしし舞をしていたそうです。お父さんは昔笛をしていて、今はお母さんが着付け係りで、家族中で参加しています。家にはしし舞の巻物があり、お祭りの日には座敷にかざります。(中略)見物の人は、わざが決まった時や舞が終わった時に大きな拍手をしてくれます。地いきの人が心を一つにしてお祭りをよりあげているようで、うれしくなります。(中略)。おじいさんは「埼玉県や大きな市も地域でいっしょうけんめい活やくしている人が支えている。」といっています。私はお祭りだけでなく、今参加しているスポーツ少年団や子ども会でも上級生としてはずかしくない態度で活やくしたいと思っています。小さな活やくでもいい

このように、「しし舞」を体験した

小学生の目を通じて、地域社会の生き生きとした姿が描かれ、さらに自己の内面の成長の様子が語られている。このしし舞は小学2年生から80代までの幅広い年齢層が加わって活動している地域が誇る民俗芸能である。この芸能で岡部美月さんはササラの役目を担っている。ししの脇役ではなく、「ししと同じくらい大切な役目」と記しており強い自覚が示されている。「地いきの人が心を一つにしてお祭りをよりあげているようで、うれしくなります」とは素晴らしい言葉である。さらに、「小さな活やくでもいいからしていると、何だか、大きなものを支えている気持ちになってきます」と述べ、体験を通して精神的な成長をとげている様子が認められる。

このように、芸能や祭りで地域の人々と一体になって取り組む体験は、小学生であっても地域社会の一員としての自覚が芽生え、社会から必要とされるこ

との幸福感や誇らしさが得られる大変貴重なものであることが理解される。



「ふるさと塾」加盟団体が日頃の成果を発表し交流し合ったフェスティバル

4. 山形県固有の「ふるさと塾」への期待

山形県では、平成17年度から「ふるさと塾」事業に取り組んでいる。「山形ふるさと塾推進協議会」によれば、この事業は「子どもの社会力の育成を目指し、地域文化の伝承活動を通してふるさと山形を元気にする運動」を推進するものであり、「親から子、子から孫の世代へ、ふるさと山形のよき文化を教え、伝え、学び合う」こととして、具体的には次の3つの目標を掲げている。

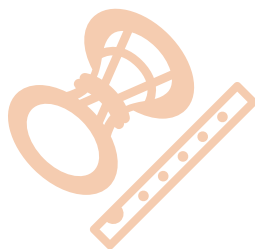
る。①郷土愛を醸成する。②地域コミュニティの活性化をはかる。③地域文化の保存・伝承をめざす。

このように「ふるさと塾」事業は、子どもへの教育・地域活性化・伝承文化の継承という今日的課題を有機的に結びつけて解決していこうとする、山形県独自のすぐれた地域文化教育運動といってもよいだろう。これまで「ふるさと塾フェスティバル」「山形ふるさと塾活動賞」「語り部(指導者)研修会」「ふるさと塾アーカイブス」など先進的な取り組みを行ってきた。毎年賛同団体を募っており令和2年3月まで307団体が加盟した。長年の「ふるさと塾」活動により、大人から子どもたちへの文化の継承活動への支援体制はほぼ整っている。伝承文化の後継者育成にとどまらず、子どもの健全発達の促進に役立ち、地域社会がいつそう元気で楽しい場所となっていくよう期待している。



「ふるさと塾」アーカイブス
「ふるさと塾」の活動を是非ご覧ください。

地域文化の取り組みを紹介します



真室川町 | 真室川スタディツアー ～伝承芸能編～ オンライン開催！

いま、真室川が面白い！

■ 事業内容 ■

真室川町には多くの宝物があるのに、「真室川って、何もない」という声を耳にします。小中学生は、ふるさと学習などで地



域の良さを学んでいますが、大人はどうでしょう。子ども達と一緒に大人も地域の良さを学び、郷土愛を醸成していこうというこの事業は、令和元年度からスタートした第一次真室川町教育振興計画の重点施策として企画したものです。ジャンル・テーマを変え、6回のプログラムを予定しています。今回の「伝承芸能編」は、新型コロナウイルス感染症の対応として、やむを得ず、ホームページやSNSを活用した「スタディツアーオンライン」として開催しました。

■ ここが大変 ■

オンライン開催決定から公開まで約1ヵ月、土日も含めて撮影・編集を行うハードスケジュールでした。SNSとの連携や字幕製作、過去2回のスタディツアーのレポートも含む、「スタディツアーポータルサイト」作成も同時進行で、集中的に作業を進める必要がありました。

■ ここがうまくいった ■

演技・演奏だけでなく、各団体の代表者や指導者が行う解説がポイント。方言や言い直しも活かして臨場感を演出しました。また、実地では時間的に難しいのですが、時間制限の無いオンラインでは団体全てを網羅的に紹介することができました。さらに、ホームページで公開することで学校の授業での教材的な活用も期待できます。

参加者
voice

柔軟な企画がとても素晴らしいと思いました。内容も皆さんの郷土愛がひしひしと感じられるものでした。関係者の取り組みに感動。益々真室川の町が大好きになりました。（横手市 60代女性）

山形市 | 谷柏田植踊

谷柏田植踊の復活 —学生と地域のコラボレーション—

■ 活動内容 ■

谷柏田植踊は明治時代前後に谷柏村（現山形市）に伝承されたと言われて、村の若者達によって行われてきました。戦後村の若者が少なくなり途絶えようとした時に地域の婦人達が立ち上がり、これを引き継ぎ伝承。その後、担い手の高齢化や後継者不足により活動が途絶えてしまいました。そこで復活に向けて動いたのが、東北文科大学の学生と谷柏地区の住民達。学生は民俗芸能サークル「舞」を結成し、地区の「谷柏田植踊保存会」とコラボレーションすることで、約20年ぶりに谷柏田植踊を復活。今年度はコロナ禍でも、学生11名と住民12名はいっそう協力して継承活動に励んでいます。

活動者
voice

活動を通し、自分たちの世代も伝統をつくっていると感じています。（民俗芸能サークル「舞」10代男性）

■ ここが大変 ■

今年度で復活5年目を迎えますが、毎年学生が卒業していくので、新規加入者を募って継続していく難しさを抱えています。

■ ここがうまくいった ■

直接踊りと歌を教えてくれる経験者が全くない中、唯一手がかりとなったのは一本のビデオでした。幸いなことにパートごとに全4演目が収められていて、また衣装や楽器も破損することなく大切に保管されていました。





さとう かおる 佐藤 薫さん

被災地支援グループ“チームはちまき”
事務局長（鶴岡市）

県内で自ら学び続け、いきいきと活躍している方を「たからびと」として、インタビュー形式でご紹介します。今回は、被災地支援グループ“チームはちまき”として被災地での支援活動のほか、NPO法人鶴岡災害ボランティアネットワーク理事や鶴岡市地域防災アドバイザーとして活動されている佐藤薫さんにお話を伺います。



「生きがいづくり」の一つとして、編み物が好きな方には毛糸をお届けしています。完成した手編みのベストを着る佐藤さん（左）

携しての物資支援を行い、その年の8月、有志3人で“チームはちまき”を結成。その後は、

―始めたきっかけと、現在の活動は？―

平成21年6月、勤めていたNPO法人で「NPO法人鶴岡災害ボランティアネットワーク」の設立準備に携わったこともあり、平成23年3月11日の東日本大震災の翌日から、災害ボランティアネットワークで募金活動を始めました。3月18日に通のメールが届きました。「どんな動きをしていますか」。前年度にスタッフとして関わっていた山形県生涯学習文化財団主催の「生涯学習コーディネーション能力開発講座」受講生の一人からでした。これがきっかけで「現地に行こう」と呼びかけを開始。高校生や大学生も巻き込んで募金による資金調達、資機材準備。そして泥かきや廃棄作業などのボランティア「かたづけ人」のチラシを作成して仲間を募り、4月10日に庄内地域の有志25名と宮城県石巻市で活動しました。4月16日、今度は南三陸町歌津へ。避難所ではノロウイルスが発生。食事や寝具の不衛生解消のために、翌々日には簡易食器を届けました。以来、毎週のシーツ交換、避難所自治会と連

お花見や芋煮会の交流、毎年3月11日の「慰霊と希望の集い」の開催、月に度の傾聴など相手の心に寄り添った活動に努めてきました。また、庄内地域の自治会や婦人会、老人クラブ等で被災地の様子を伝えることや、小学校、地域の少年教室で防災学習も行ってきました。数年前に防災士の資格を取り、鶴岡市の地域防災アドバイザーとして、市内の自治会の要望にこたえ講話も行っています。

―活動で大事にしていることは？―

「すぐに行動を起こす」スピードを大事にしています。そして活動を長く続けること。相手の心を開くには信頼が最も大切です。それには時間がかかります。例えば「傾聴」では3年かけてようやく語ってくれた人もいます。話すことで心の整理がついてきて、少しずつ問題を解決していこうという気持ちになってくるようです。そして「傾聴」で知ったことは他言しないということも大切。その結果、津波で大きな被害を受けたものの、立派に仕事を復活させる大工さんや漁師さんなど、自ら強く立ち上がる被災地の人々の姿を何度も目にしました。相手の話を「ひたすら聴く」ことが支援になることを実感しています。地元庄内には、私たちの活動に共感し協力してくれる人が大勢います。感謝しかありません。たった3人の力は知れています。「現地には行けないけれど役に立ちたい」という人とのつながりを大切にしています。

―一歩踏み出すためのメッセージ―

まずは気負わずに、関心のあることから始めてみてはどうでしょう。好きでないと長く続けられません。私は「チームはちまき」の活動が防災を真剣に考えるきっかけになり、積極的に被災地に足を運ぶこととなりました。南陽市、村山市、大石田町、戸沢村、地元鶴岡市、宮城県丸森町、大崎市など数え切れないほどです。活動先では必ず得ることがあります。知識や技術を学ぶことも大切ですが、私の場合人は人とのつながりが自分を豊かにしてくれました。今まで足を運んだ地域から、本当は大変なはずなのに、県内の災害の時に物資が送られてきたり、心配する連絡があります。これまでの支援が繋がっていると感じます。本当にありがたいと思います。人とのつながりは生きる力であり、何物にも代えられない大きな財産です。「迷ったら動く」「一歩踏み出す」「仲間がいる」皆さんも少しの「勇気」を出してみてください。



三陸町歌津地区館浜・稲渚の皆さんと「3.11の集いの会」での一場面。中央の列右側が佐藤さん



<https://to-3ka-3.wixsite.com/hatimaki>

“チームはちまき”のHPです。「はちまき」に込められた思いや活動を是非ご覧ください！

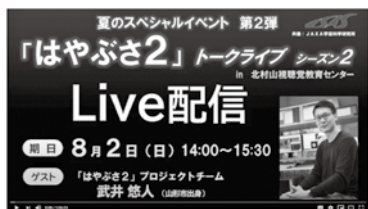
コロナに負けない!

地域の取り組みを紹介します。

天文講演会JAXA「はやぶさ2」トークライブ（北村山視聴覚教育センター）

●講演会の内容

世界の注目を集めている小惑星探査機「はやぶさ2」。昨年度「はやぶさ2」の実物大模型を展示、今年度はプロジェクトメンバーで、県内出身の武井悠人氏のトークライブを開催し、プロジェクトの意義や最先端の科学技術についてお話いただき、参加者の宇宙への興味をより一層高める機会になりました。コロナもあり、参加者数を限定しての開催だったため、YouTube（ユーチューブ）のライブ配信で会場に来れなかった方もオンラインで参加いただきました。「はやぶさ2」



地球帰還を受け、関連するトークライブを12月19日(土)に開催予定です。ご期待ください!

●ここが大変だった

撮影機材が揃っていて映像教材の作成ができる施設の強みを活かしたライブ配信。Zoom(ズーム)とYouTubeを併用した試みは初めてで、映像や音声システムの構築は大変でしたが、臨機応変に対応。本番は機材操作で通常の講座より事務局の人数が必要で大変でした。

●ここがうまくいった

ライブ配信の緊張感がありましたが、映像が少し止まる以外トラブルはありませんでした。YouTubeの経験は浅いですが、これまでのZoom会議の積み重ねなどで得た経験や、カメラワークの研修を受けた経験などが糧となったと思います。

受講者
voice

武井さんのお話を聞いて、とてもワクワクしました。少し難しかったけれど、映像を見ながら、はやぶさ2やJAXAのことを知ることができて良かったです。もっと宇宙が好きになりました。(東根市 小学6年男子)

ここが知りたい!

オンライン講座



Q.オンライン講座に切り替えた理由は?

本トークライブは、一般の方にとっても関心の高い講座。募集開始後にすぐに満席となってしまうことが想定されたので、YouTubeのライブ配信をすることで、当日会場に来られない人の思いを叶えたいと思いました。当センター所長からの「少々トラブルがあっても、思い切ってやってみよう!」という言葉も後押しとなりました。今では、講演会や会議にとどまらず、会員制の星空教室なども、オンラインで講座を行っています。check 1!

Q.ZoomとYouTubeの使い分けについて

Zoomで講師と会場を繋ぎ、YouTubeで会場の様子をライブ配信。映像を切り替える機材を用いて、講師の画面と会場の画面を切り替える操作を行いました。check 2!



Q.注意点は?

事前練習が必須。特にZoomを使用する時は少人数から練習し、50人を超える研修会などもZoomで開催できるようになりました。これまでの経験上、オンライン参加者全てがPCから視聴する訳ではないため、資料作りなどに工夫が必要だと感じています。また、一方向の配信になってしまわないよう、見ている方も参加できるような工夫が大切です。

Q.当日までに取り組むこと

(参加者) 今回のオンライン受講者はYouTube配信のため、YouTubeが見られる環境があれば特に準備は不要です。

(事務局) テレビ番組の生中継と同じなので、司会者の立ち位置やカメラの配置を決めたり、講師との事前のリハーサルが重要です。



取材に詳しくお答えいただいた星川さん

check 1!

チラシにはQRコードを掲載し、そこから申し込みが出来るように工夫。実際に申込者の8割が利用。

check 2!

開始前や休憩中はスライドなどで画面を表示すると、今どんな状況かが伝わりやすくなります。

当日の配信はこちらからご覧いただけます!



北村山視聴覚教育センター TEL:0237-55-4211 (代表)

一般向け 関係者向け

高齢者生きがいづくり・生活支援活動人材育成等事業

高齢者が住み慣れた地域で自立した生活を継続するため、高齢者の生きがいづくり・生活支援活動に参加する担い手を育成します！

■生活支援活動ステップアップ講座

(食事提供・移動支援)：定員30名

活動で生じたニーズ等(移動支援や食事提供等)に対応できるよう知識や技術を学ぶ研修です。

食事提供

12月18日(金)遊学館(山形市)

12月19日(土)庄内町余目第1公民館(庄内町)

移動支援

12月15日(火)南陽市えくぼプラザ(南陽市)

12月16日(水)新庄市ゆめりあ(新庄市)

申込み 山形県生涯学習センター(下記)へ

一般向け

山形学講座(オンライン同時開催) 「人々は疫病をどう乗り越えてきたか」

新型コロナウイルスが猛威をふるう中、医学的な見地から疫病についての実態や現状を理解し、これまで人々は疫病にどう向き合ってきたのかを歴史的に振り返り、困難や逆境を乗り越えて生き抜いてきた人々の姿に思いを致し、コロナ禍の今およびその後の私たちの生き方を考えていきます。

日時 令和3年1月31日(日)、2月28日(日)全2回
いずれも13:30～15:30

会場 遊学館ホール

定員 会場100名、オンライン100名程度

料金 会場1,000円(学生500円)、オンライン無料

※オンラインでは資料の提供や、講師への質問受付は行いません。
詳細は後日、チラシやHPにてご確認ください!!

編集 後記

今回の広報紙はいかがだったでしょうか?「たからびと」の佐藤さんのお話から、人とのつながりの大切さを改めて考える機会になりました。そして「すぐに行動を起こす」「迷ったら動く」という言葉にドキッとされた方もいらっしゃるのではないでしょうか。気になることを少しずつ日々の生活に取り入れるだけでも、何か少しずつ変わっていくような気がします。(R)

文翔館・遊学館・洗心庵・教育資料館
4施設合同企画

歴史文化ゾーン ～庭園・樹木を巡る2020～

一般向け

4つの文化施設が集まる「歴史文化ゾーン」。各施設には、歴史を物語る庭園や樹木がありますが、中でも、洗心庵の庭園は、名造園家・岩城巨太郎が手掛け、自ら「東北一の庭」と称しました。今年は、庭園や樹木の魅力・手入れをテーマにして学んでいきます。明治時代の石材を活用した「gura」も特別協賛。

■スタンプラリー

日時 11月3日(火・祝)～11月22日(日)

スタンプポイント 文翔館・遊学館・洗心庵・教育資料館・gura
5つの施設のスタンプを集めた方へ素敵なプレゼント。

問合せ 山形県生涯学習センター(下記)へ

一般向け

洗心庵 庭園と抹茶を楽しむ会

例年ご好評を頂いているお茶会です。四季折々、日ごとに違う表情を見せる洗心庵に是非お越しください。

日時 11月21日(土)、22日(日)、12月5日(土)
10:00～15:00 ※先着40名

茶菓代 300円

問合せ 洗心庵(下記)へ

※第7回洗心庵写真コンテストの作品を募集中です!
詳細は財団HPをご確認ください。



一般向け 関係者向け

地域づくり人材育成セミナー 「人が集まる講座の企画と運営 ～防災・減災講座編～」

「事業がマンネリ化している…」「地域課題を考える講座はなかなか人が集まらない…」そんなお悩みを抱えている皆さんへ。地域の方々に楽しく学んでいただく生涯学習講座の企画と運営について、実績ある講師や様々な事例からそのポイントを学びましょう!今年のテーマは「防災・減災講座」です!

日時・会場

[山形]12月4日(金)遊学館(山形市緑町1丁目2-36)

[庄内]12月5日(土)酒田市公益ホール(酒田市飯森山3丁目5-1)

時間は両会場とも、10:00～16:00

料金 無料

申込み 山形県生涯学習センター(下記)へ

🎁 読者プレゼント 🎁

「生涯学習やまがた」をご覧いただいている皆さまに、感謝の気持ちを込めて、抽選で3名様へ遊学館ブックス最新刊『どっこい方言は生きている』(2月発売1,100円)をプレゼント!下記の山形県生涯学習センター広報紙担当あてに【①お名前・ご住所②入手場所③興味を持たれた記事④内容についてのご感想・ご意見・ご要望】を添えて、はがき・メール・FAXでご応募ください!締め切りは12月末です。

編集発行 (公財)山形県生涯学習文化財団 令和2年11月発行

山形県生涯学習センター 〒990-0041 山形市緑町 1-2-36[遊学館]

TEL 023-625-6411(貸館専用TEL 023-676-7182) FAX 023-625-6415

E-mail yama@gakushubunka.jp

URL https://www.gakushubunka.jp/yugakukan/

開館時間 9:00～21:00[夜間利用が無い場合は20:00まで]

休館日 第1・3・5月曜日、第3日曜日、年末年始

洗心庵[山形県生涯学習センター分館] 〒990-0041 山形市緑町 1-4-28

TEL 023-664-2800 FAX 023-664-2816

開館時間 9:00～21:00[夜間利用が無い場合は19:00まで]

休館日 毎週月曜日、毎月第3日曜日、年末年始